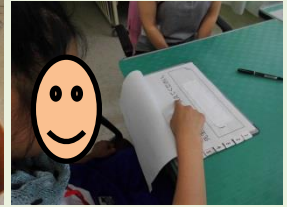


「学びの变革」指導展開例

＜基本情報＞

- ◇教育課程 生活単元学習
- ◇学 年 中学部 第2学年(2名)
- ◇単 元 名 「進路学習(いろいろな仕事)」
- ◇単元の目標
 - いろいろな仕事について調べる活動を通して、働いている人の仕事内容に興味や関心を深めることができる。(生3(11))
 - 調べたことなどを発表する場においては、見聞きしたことや体験したこと、自分の気持ちや意思、希望などの大体的内容を相手に伝わりやすいように発表することができる。(国3(2))
- ◇本時の目標
 - ・ 学校で働く人にインタビューする活動を通して、働いている人の仕事について興味や関心を深めることができる。
 - ・ 相手に伝わるように発表しようとするすることができる。
- ◇生徒の実態 知的障害と身体障害、聴覚障害を併せ有する生徒A、知的障害と身体障害を併せ有する生徒B。共に言語によるコミュニケーションに課題がある。



＜学習過程(抜粋)＞

学習活動	指導上の留意点		
	A	B	全体
1 導入 ・挨拶をする。	○指導者の方を見ていない時は、ジェスチャーで前を見るよ	○自力で立ち、静止し、指導者を見るまで待って号令をかけ	○目標と工程をホワイトボード
3 インタビューする。	○ <u>インタビューカード</u> に直接記入してもらい、それが発表シートに簡単に反映できるように工夫する。 ○インタビューカードは1枚1問ずつ質問を記載し、記入が終われば次頁を生徒自身がめくって、主体的にインタビューを進めることができるようにする。(T1)	○インタビューカードに直接記入してもらい、それが <u>発表シートに使える記入シート</u> を使用する。 ○インタビューカードは1枚1問ずつ質問を記載し、記入が終われば次頁を生徒自身がめくって、主体的にインタビューを進めることができるようにする。(T2)	○振り返り時に使用できるように、目標に関わる生徒の様子を写真で撮る。(T1, T2) ○生徒Aへ補足や伝えたいことがある場合はメモ用紙での筆談を行う。(T2)

聴覚障害のある生徒Aには、回答形式の文章に単語を記入できる四角抜きインタビューカードを作成し、求めた回答内容が生徒Aに分かりやすくした。

肢体不自由のある生徒Bには、回答形式の文章に単語を記入できる部分をはがせるシートにし、回答内容を発表シートにそのまま活用できるようにした。

障害の実態から他者とのコミュニケーションに課題のある生徒が、インタビュー活動という言語でのやり取りに難しさを感じたり、消極的になったりしないように工夫した。このような支援や教材の工夫が、今後の他者とのコミュニケーション活動に対して、生徒が主体的、積極的に取り組もうとする意欲や態度を喚起できるものとする。